

FDのための情報技術研究講習会開催結果の概要

1. 参加状況

開催日：令和4年2月25日(金) (Zoom 会議室)

参加者：95名・61大学4短期大学 (前年度86名・49大学1短期大学)

2. 研究講習会の目標

学生一人ひとりの可能性を最大限に伸長する学修者本位の教育への転換や、教育の質向上・高度化を目指した対面授業とオンライン授業を効果的に組み合わせた新しい学びの創出を目指して、オンライン授業の進め方、不正防止対策、ツールの紹介、LMS の使用方法、著作権、フォーラム型授業などについて、基礎的な理解を深め実践できるようにするため、「全体会」と「ワークショップ」を設定し、その上で「全体討議」として参加者が希望するテーマなどについて情報交流する場を設けた。

3. 実施結果

- (1) 参加教員全員を対象とする全体会では、「ハイブリッド授業の進め方」、「オンラインでの不正防止対策の取組みと今後の在り方」、「著作権処理のポイントと補償金の対応」について説明を行った。

参加された教員から講習会全体の感想としては、「オンライン授業が2年目に入り、緊急対応から平常時の対応になり、いくつかの問題点を知ることができて非常に参考になった」、「ハイブリッド授業や評価の難しさなど利点と課題が明確化できた」、「講習時間を短めに設定し、午後にはグループディスカッションを取り入れるなど、リモート授業を意識した構成だと思った」、「口頭での質問はしにくかった、コメント欄への書き込みも促せば質問しやすかった」

また、全体討議については、「他大学の先生も同じ思いを持っていることや、そのような環境の中での工夫がわかり、今後の課題や解決法を探す良い機会となった(4名)」、「グループ討論の時間はなくても良いような気がした(1名)」などが寄せられた。

- (2) ワークショップの達成度を以下に掲載する。(アンケート回答者30名)

ワークショップ名	達成できた	見通しがたった	達成できなかった
① オンライン授業による試験方法と学修評価の仕方	1割(2人)	8割(16人)	1割(1人)
② 仮想患者システム、e-ラーニング臨床教育・地域連携授業		8割(3人)	2割(1人)
③ オンライン授業のツール活用・紹介		10割(4人)	
④ LMS の効果的な利用例		9割(14人)	1割(1人)
⑤ オンラインも対面も、Teams と LMS で実現する反転授業		9割(8人)	1割(1人)
⑥ 法政策等フォーラム型授業、多職種連携型 PBL 授業		5割(1人)	5割(1人)

- (3) 以下にワークショップ参加者からの特徴的な感想を紹介する。

- ① オンライン授業の試験方法・学修評価：「学修評価は、コロナ禍以前からあるコンセプトを元に工夫すれば十分達成できると感じた」、「オンライン授業では学生へのフィードバックが大切だと感じた」、「従来試験のオンライン化ではなく、平常点評価でリスク分散するという考え方を知り、その通りだと思った」、「医療系教員とディスカッションができ、オンライン授業の進め方やツールについて聴けて有意義な時間だった」、などの感想があった。
- ② 仮想患者システム、e-ラーニング臨床教育・地域連携授業：「10年前のプロジェクトがここまでできていたという事例を知ることができた。客観的臨床能力試験の法制化が控えていることもあり、それに順応していくために仮想患者システムが有効な一手になるのではないかと感じた」、「グループを意図的に振り分けてあったので話しやすく参考になった」、「他施設の状況を知り情報共有はできた」などの感想があった。
- ③ オンライン授業のツール活用・紹介：「DX講義の工夫を学ぶことができ非常に勉強になり、自分の講義へと調整していただければ」、「学生に Google Forms で問題を作成させ相互に回答するアイデアを取入れてみたい」、「私にはレベルが高すぎる場所もあるが、動画を見返してチャレンジしてみようと思う」などの感想があった。
- ④ LMS の効果的な利用例：「LMS が授業に占める役割が大きくなり、補足的なツールというよりメインに据えていく方向性を応用してみたい」、「目指すべき教育と現実的な教員の時間配分がうまくいかない印象があったが、チャレンジすることで新たな課題が生まれ、課題解決の糸口も探れるため、今はチャレンジの時

期と考えると取組もうと思う」、「学生にとって有効な振り返りについて考えさせられる時間になった」、「あまり新たな発見はなかった」などの感想があった。

- ⑤ 反転授業:「予習をさせることで授業時間を浮かせ、ディスカッションなどを取り入れるという点に共感した」、「ツールや検討課題など多くの知見が得られ、少しずつ反転授業を導入していきたいと思う」、「反転授業の要素を取り入れた授業デザインを検討するきっかけになった」、「グループ討議では、参加者も初めての方が多く、反転授業の進め方などにつながる議論までには至らなかった」などの感想があった。
- ⑥ フォーラム・PBL 授業:「多職種連携授業の導入は、単科大学のため直に導入するのは困難であるが、ツールのデジタル化を図り、基盤づくりを進めることができる示唆をもらった」、「他のワークショップに参加するつもりが間違って参加して人数が少なく出るに出られず議論もあまりできず申し訳なかった」などの感想があった。

(4) 以下に全体討議（テーマ別ブレイクアウトルーム）参加者からの特徴的な感想を紹介する。

- ・ ハイフレックス授業について、各大学の苦労や画期的な改良点を学ぶことができた。
- ・ 実験実習や討論学習などオンラインで行うことが難しい授業形態ですが、各大学での取組みを聴かせていただき今後の参考になった。
- ・ オンライン授業環境整備について、他大学の興味深い試みを聞くことができた。なお、希望するテーマ（部屋）での討議運営は、フリーディスカッションで行うことに盛り上がりに限界があるので、予め部屋を指定しておくとか、参加者内で司会進行を設定するなど発言を促す働きかけがあっても良かった。
- ・ 誰が音頭をとるかで最初もたついたが、意見は言い合えたと思う。
- ・ 少し時間が短かったかもしれません。